

試験研究情報のデータベース化と情報提供の高度化

(水産試験場研究情報提供事業)

向井哲也・由木雄一

1. 研究目的

水産試験場に保存されている試験調査結果ならびに統計資料を水産関係者および一般県民が簡単に利用できるよう逐次電子化する。さらに、インターネットを利用した情報提供システムの開発を行い、情報提供を広範囲かつ迅速に行えるようにする。

2. 研究情報の電子化と情報提供

- ・平成16年度事業報告書をPDFファイルに変換し、Microsoft Excel97形式のファイルに変換した各種調査資料とともにCD-ROMに保存し、事業報告書とともに関係機関235箇所に送付した。事業報告書は水産試験場ホームページにも掲載した。
- ・島根の漁海況情報「トビウオ通信」(平成16年4月～平成18年3月)を毎月発行し、水産試験場のホームページ(<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>)に掲載した。
- ・平成16年12月からは、情報誌「とびくす」を発行し、魚介類や水試の業務についてトピック的な話題提供を開始した。とびくすは水試のホームページにも掲載している。平成17年度は3号～7号と5回発行し、現場脂質測定器を利用したどんちっちアジやノドグロのブランド化、大型クラゲ対策、巨大なサバやイサキなどの情報提供を行った。
- ・ホームページ上で島根県の各地の漁況情報を紹介している。「とれとれ情報(旬の魚、月別漁模様)」、「旬の魚」では、現在、島根県沿岸で釣、刺網、定置網により漁獲されている魚種について、漁獲量の多い順に上位10魚種を地区別(出雲東部・西部、石見東部・西部、隠岐)に写真入りで紹介した。内容は毎月上・中・下旬に更新を行った。「月別漁模様」では、主要漁業種(中型まき網、沖合底びき網、小型底びき網1種、定置網、採貝藻)の月別の漁獲量と水揚げ金額を出雲、石見、隠岐ごとにグラフで紹介した。グラフには前年と平年の漁獲状況を併せて表示した。また、それぞれの漁業種の主要魚種について、漁獲量と水揚げ金額の多い上位10魚種をグラフと数値で紹介した。
- ・ホームページ上で「海のお天気」として試験船による海洋観測結果と、山口県および鳥取県の観測データをもとに作成した島根県沖の水温分布図を登録した。水温分布図は水深0m、50m、100mの3層について作成、登録した。このほか、浜田港における毎日の水温(午前10時計測分)を、過去1週間の水温と併せてグラフで表示した。
- ・イントラネット上に「水産情報FAQシステム」を構築し、これまでの県民・漁業者などからの問い合わせ内容をデータベース化し、水産部局内で情報の共有ができるようにした。